

様式1 平成 26 年度 学校評価報告書 (中間・最終)

学校名	須賀川市立大森小学校	学校教育目標	未来をひらく(世界にはばたく)豊かな創造性と確かな判断力を持ち、心身ともに健康で何事にも責任をもってやりぬく子ども
校長名	石山 公子		○ 進んで学習する子ども ○ 心もからだも健康な子ども ○ 責任を持ってやりぬく子ども

「学校教育の重点」との関連	評 価 計 画			評 価 結 果		
	本年度の重点目標または重点課題	評価方法及び達成指標	具体的な改善策(主担当)	自己評価の概要(実現状況及び課題)	学校関係者評価の概要	判定
安全・安心対策の充実	○子どもたちが安全で安心な学校生活を送ることが出来る学校作り ・登下校の安全 ・学校生活の安全 ・放射線への対応	○学校評議員、児童及び保護者からの評価 ○教職員による自己評価 ○学校行事(避難訓練等)の反省	○学校評議員及び児童・保護者からの評価、意見等をもとに安全・安心に対する取組を改善・検討(管理職) ○改善策に生かす教職員の自己評価(安全部)	○地域との連携でカーブにあるバス停の移動が実現、交通事故ゼロ8000日達成。 ○放射線量測定を毎日実施し、情報発信。安全を重視して運動会・プールを実施した。 ○児童の安全確保のために、集団下校・教員引率下校に努めてきた。 ●今後も、安全・安心の確保のための日常的な点検を図っていききたい。	通学路の危険箇所等の撤廃に区長さんのお力添えで取り組んだ。見守り隊等地域の協力により安全・安心への取り組みがなされた。(横断歩道設置は、来年度実施予定)	⑤ 4 2 1
幼・こ園、小、中学校の連続性・一貫性	○近隣校との一層の連携(幼・小、小・小、小・中) ・情報交換 ・合同事業の実施	○大東地区における三校一園の連携(授業研究、学習面の課題についての検討会、大東地区全体での生徒指導上の取組)	○大東地区全体としての課題解決のための共通実践の推進(3校1園PTA連絡協議会) ○小・中連携協議会による授業研究会の実施 ○課題を焦点化した話し合いの充実	○三校一園事業でPTAを含めて大東地区全体の課題について話し合い、改善を図った。「甲状腺検査」について講演会も実施した。 ○小中連携協議会で年2回、授業参観と分科会での情報交換を実施。幼稚園の参加もあり、情報交換や相互理解が図られた。●具体的共通事項の設定。	大東地区三校一園PTA連絡協議会の教育講演会『甲状腺検査出前講座』は大いに評価できる。「甲状腺」に関する教育講演会等の実施は、福島県の現状に即している。	⑤ 4 2 1
特別支援教育の推進	○特別な教育的ニーズの必要な子どもの実態把握と「個別の指導計画」の作成・検討 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育推進委員会の活用	○特別な教育的ニーズを必要とする子どもへの支援状況についての検討 ○保護者によるアンケート調査 ○特別支援学級児童の保護者との面談	○通常学級担任への特別支援教育の研修の充実 ○「個別の指導計画」の作成 ○各担任と特別支援教育コーディネーター、校長、教頭との分担・連携(特別支援教育担当)	●「個別の指導計画・支援計画」を作成し、短期目標を設定して支援に取り組んでいる。さらに、有効活用を図っていききたい。 ○特別支援教育支援員が、毎日寄り添った支援を実施。 ○コーディネーターを中心に校内指導体制を確立し、全職員で指導にあたった。	特別支援コーディネーターを中心に、学校全体で特別支援教育に当たっている。小規模校のていねいな指導のよさが生きていて、特別支援学級の児童の大きな成長を感じる。	5 ④ 2 1
「確かな学力」の育成	○自ら学び考え、表現する児童の育成を目指す授業の追求 ・基礎的・基本的な知識・技能の習得 ・思考力・判断力・表現力の育成 ・児童一人一人に応じた指導の工夫 ○共に学び合う授業の充実	○教職員による自己評価、学校評議員による評価 ○目標管理制度を活用した指導法の改善 ○保護者・児童へのアンケート調査 ○講師招聘による授業研究の実施 ○現職教育の活用	○共に学び考え、共に支え合い高め合う授業の実現のため研修主任を中心とした授業改善のための計画作成検討(研修主任) ○学力調査の実施と分析、活用(研修主任) ○家庭学習の習慣化のための家庭との連携推進(現教主任・各担任)	●全国学力テスト結果から、A問題(主として知識)については県・全国平均を上回るもの、B問題(活用)について落ち込みが見られた。 ○市の学力テストでは、2・4・5年共に市の平均を上回った。 ○共に学び考え、共に支え合い高め合う授業を旨とし、日々の授業実践に取り組むとともに、講師を招聘し授業研究を行った。 ○家庭学習の定着に、学校全体で取り組むことができた。●習慣化に向けて取り組みたい。	少人数のよさ生かし、個に応じた学習の充実を図ることができた。学びを支える「読書活動の充実」を図ると共に、判断力・表現力の育成に向けて力を入れたい。「生きる力」の育成に向けて夢を持って取り組む意欲付けを今後も行っていく。	5 ④ 2 1
心の教育の充実	○毎日元気に学校に登校し子どもが生き生きとする学校作り ○集団での生活を通じた社会性の育成 ○児童の内面に根ざした道徳性の育成	○保護者・児童へのアンケート調査 ○調査結果を生かした保護者・児童個別懇談 ○不登校・いじめゼロ ○教職員による自己評価	○保護者・児童のアンケート調査の分析と改善策の作成検討(管理職・担任) ○アンケート調査結果を生かした個別懇談の実施 ○いじめ調査の実施分析(各担任) ○定期的、随時の生徒指導会議の実施(生徒指導主事) ○道徳の授業の充実(道徳主任)	○不登校ゼロ。楽しい学校作りに全職員で取り組んだ。 ○いじめにつながる行動が見られたが、校内指導体制を確立して全職員で指導した結果、改善を図ることができた。 ○今後も、子ども一人一人の自己有用感を高められるよう、きめ細かな支援を行っていく。 ○道徳の授業を保護者・地域に公開し、心の教育について連携を図った。	いじめ・不登校ゼロに向けて、全職員で取り組んでいる。さらに、児童一人一人の自己実現が図れるように取り組んでいきたい。職員への個人的負担が軽減できるよう、組織的な取り組みを期待したい。	5 ④ 2 1
健康教育の充実	○心身ともに健康で明るく安全な生活を送ることができる児童の育成 ・基本的な生活習慣の確立 ・早寝・早起き・朝ごはんの実施 ・体力・運動能力の向上	○自己評価や外部による評価 ・児童実態調査 ○講師招聘による授業や講演会の実施 ○保護者及び児童へのアンケート調査	○管理栄養士による講演会実施と食育についての保護者への啓発活動(食育担当) ○性に関する教育の授業を実施(担任) ○食育など基本的な生活習慣の育成(各担任・養護教諭) ○日常的な体力作りの場の設定(体育主任)	○食育指導、歯みがき指導、思春期性教育事業など、講師を招聘して指導を行った。 ○朝食、歯磨き調べ等の実態調査をもとに、個に応じた指導を実施。効果が見られる。 ○体力づくりでは、体育の授業に身体運動プログラムを積極的に取り入れた。また、業間のマラソン・なわとびは、がんばりカードの活用や記録会の実施でめあてを持たせて取り組ませることができた。 ○高学年は、水泳大会、陸上競技大会でよい成績を残した。 ○1学期反省を生かし、業間の時間を使って体力作りの日常化を図ることができた。	むし菌の早期治療、食に関する指導、体力向上に関する指導等については、生涯教育の根幹をなすので、今後とも保護者との連携を深め、きめ細かい指導を展開してほしい。	5 ④ 2 1
開かれた学校づくりの推進	○子どもたちが自分たちの地域を誇りに思い地域と共に創る学校 ・学校・家庭・地域の連携強化 ・積極的な情報発信	○保護者へのアンケート調査及び学校評議員会による評価	○学校評議員会の開催(管理職) ○学校HP、学校だより等(管理職) ○授業参観や学校開放日等での情報発信(管理職)	○学校評議員会の開催、民生委員や主任児童員との情報交換で、評価や意見をいただいた。 ○学校のHP、学校便り、学級通信、メール配信等、積極的な情報発信に努めた。 ○ふれあい授業では、お年寄りとの交流を図った。	ふれあい授業・学習発表会など地域交流の場が設定されていてよい。学校便りなどで、学校の様子が分かる。今後とも地域に開かれた学校を目指してほしい。	⑤ 4 2 1
教職員の資質・力量の向上	○習得・活用・探求を一元的に目指す授業を展開できる教師の育成 ○子ども一人一人のよさを生かした学級集団作りのできる学級経営能力の育成	○OJTによる授業の改善と授業研究 ○文献研究や先進校視察及び伝達講習 ○教職員の特技やよさを生かした現職教育との連携	○「特色ある学校づくり事業」を活用した講師招聘による授業研究 ○普段からの授業参観と授業改善のための話し合い(全教職員) ○特技を生かした実技研修の実施(研修主任)	○全職員による研究授業を実施した。講師招聘により、指導力向上の研修を行った。 ○日常からの授業参観と改善・工夫については、意図的に取り組んでいきたい。 ○OJTの考えで、職員の校務遂行の力量向上を図っている。 ●ICTの活用は個人差があるので、PCリテラシー向上に取り組んでいきたい。	教職員一人一人の資質・力量の向上につながる具体的な体制整備をより一層進めてほしい。	5 ④ 2 1

特 記 事 項	次 年 度 へ の 課 題
<p>※ 学校評議員会を年に2回開催し、本校の実情について理解を深めていただいた。運動会やふれあい集会、授業参観等にも来校。7月と12月実施の「学校アンケート」をもとに、1月に学校評議員会を開催し「学校評価」を実施いただいた。</p> <p>○特別支援教育コーディネーターを中心とした、一人一人の教育的ニーズに応じた取組、保護者との共通理解に効果が認められた。</p> <p>○基礎的・基本的な知識・技能の習得及び活用の部分については、市の平均を上回ることができた。(市学力調査を上回るもの2・4・5年国語・算数、ほぼ同じ3年国語、下回るもの3年算数)</p> <p>○3年生の算数科の応用・活用について重点的に取り組んでいきたい。</p>	<p>○「生きる力の育成」と児童一人ひとりのよさを生かす教育の実現</p> <p>○教職員の学校経営への参画意識の向上と機能する校内組織</p> <p>○教職員一人一人の指導力向上をめざす研修体制の確立</p> <p>○地域に信頼される学校運営を今後ともめざす</p>